

⑤ 平成 25 年度「自立と体験 3」実施報告

平成 25（2013）年度「自立と体験 3」実施報告書

1. 概要

平成 24（2012）年度に開講した「自立と体験 3」は 2 年目を迎え、後期に授業を終了した。昨年度は、開講初年度であったため、履修人数が読めない、担当する教員数も限られていることから、キャリア教育の専門委託業者と明星教育センターが連携して、教案の作成から授業実施まで行った。今年度の「自立と体験 3」は、昨年度の授業内容と運営についての改善事項を受けて、委託業者との提携した授業実施ではなく、授業企画・運営等明星教育センターがすべて担当することにした。これは、当初から予定していた明星大学独自のキャリア教育確立に向かうための施策でもある。受講学生の自己評価のアンケートは、昨年同様に好評を得ているが、来年度に向けて受講学生の増加や内容の充実を更に図る必要がある。

以下、平成 25（2013）年度「自立と体験 3」の実施について報告する。

2. 学科への周知

平成 24（2013）年度の課題として、「自立と体験 3」および「自立と体験 4」を各学科に周知することがあげられていた。そのため平成 25（2014）年 2 月から 3 月にかけて、学科独自のキャリア教育に関するヒアリングと「自立と体験 3」、「自立と体験 4」の内容説明を兼ねて 9 学科および全学共通教育委員会に訪問した。4 月の各学科の履修ガイダンスにおいて「自立と体験 3」、「自立と体験 4」の学生への周知を依頼し、全学科でチラシを配布（約 4000 枚）し、人間社会学科、福祉実践学科、日本文化学科、経済学科、情報学科の 5 学科については、明星教育センター特任・常勤教員がガイダンス内で直接説明を行った。その結果、学生の履修が 235 名（昨年は 208 名）※注 1 となり 27 名増加した。

3. 授業内容

1）シラバス

「自立と体験 3」のシラバスは右記の通りである。（表 1 参照）

2）授業内容の改善点

平成 24（2012）年度の課題のひとつに、「学生が授業の中でじっくり考える時間を確保する」というものであった。特に、委託業者の派遣講師はプログラム内容を時間内に完了することに意識が向かいがちであり、学生に考える時間を十分に与える余裕がなかったことが挙げられていた。今年度は、教材・教案も含め、授業内容の作成および授業を明星教育センター常勤教員、特任教員および非常勤教員が行った。これらのことにより、昨年度の課題を克服することを目指した。以下にその特色を見ていく。

週	授業名	
1	オリエンテーション	
2	表現技法 1	自分の意見を述べる
3	表現技法 2	話し合って結論を出す
4	チーム活動技法	チームワークを理解する
5	問題解決技法（1）	問題解決を体験する
6	問題解決技法（2）	問題解決のプロセスを学ぶ
7	表現技法 3	社会的な問題を話し合う
8	問題解決演習 基礎 1	問題点・課題を発見する
9	問題解決演習 基礎 2	問題点・課題の解決策を探る
10	問題解決演習 基礎 3	解決策のプレゼンテーション
11	問題解決演習 発展 1	問題点・課題を発見する
12	問題解決演習 発展 2	問題点・課題の解決策を探る
13	問題解決演習 発展 3	解決策のプレゼンテーション
14	キャリアデザイン	自分の持ち味を探る
15	総まとめ	今後の行動を考える

表 1 平成 25 年度 「自立と体験 3」シラバス

①連続性のある授業構成；15 回の授業全体の流れを意識した内容とした。シラバスを見て分かるよう

に、今年度の「自立と体験 3」の授業で中心になるのは第 8 回から第 10 回とおよび第 11 回から第 13 回の 2 回にわたって行う問題解決演習の基礎と発展である。前半（1 回～7 回）で、グループによる問題解決を行うための基本的なスキルを学ぶ内容を置いている。表現技法 1、2 およびチーム活動技法では、協同学習のための最も基本的なスキルであるコミュニケーションとチームワークを学ぶ内容を置く。そして、次の問題解決技法 1、2 では、後半（第 8 回～第 13 回）の演習で用いる問題解決の手法を学ぶ（図 1 問題解決技法参照）。そして、そこから問題解決につないでいくことになる。6 回にわたる問題解決演習で、問題解決の基本的手法の内容を変えながら繰り返し学ぶことになる。

最後にキャリアデザインと総まとめでは、第 1 回からおこなって来た内容を振り返り、3 年次の「自立と体験 4」につなげていくこととなる。

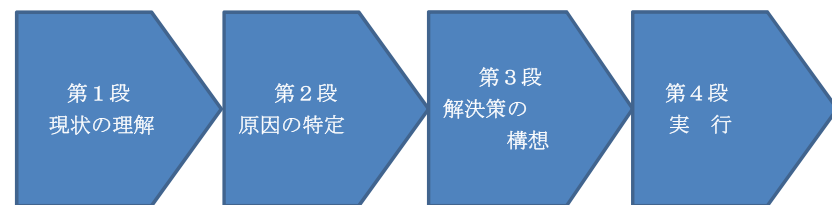


図 1 問題解決手法

②学生自らが考える時間を担保

平成 24（2012）年度の「自立と体験 3」の別の課題としては、「学生にじっくり考えさせる時間を与えるより、教え込む形になりがちであった」ことにある。平成 25（2013）年度の授業では、一つひとつの演習が終わると、教員が学生に問いかけることによって、学生自らが学びを深め、広げていくことを意識した授業構成とした。

③個人プレゼンテーションを導入

第 9 回目の授業から、問題解決演習と並行して個人プレゼンテーションの準備を始め行う。プレゼンテーションの基礎を学び、コンテンツを考え構成し、第 13 回目から個人プレゼンテーションを全員が行う内容である。プレゼンテーション能力は、社会に出てからも様々な形で、どのような仕事においても必要となるものであり、その基本的スキルを学ぶ機会とした。

④毎回の授業の中に、社会人基礎力を学ぶ仕組みを入れる

平成 25（2013）年度の「自立と体験 3」の授業内容は、各回の授業の中に、社会人基礎力につながる様々な機会を組み込み構成している。例えば、第 7 回の表現技法 3 では、新聞記事を通して社会に関心を持たせるという内容である。記事を読んで社会に触れるだけではなく、記事を読み込み、要約し自分の意見をまとめ、グループで討議する。このような演習を通して、論理的な思考、論理的な文章を書く力、自己表現力をトレーニングする機会とするとともに、社会に関心を持ち、生きる目的や意味も考える機会へと繋げていく仕組みや機会を授業の中に取り入れている。

3)教材・教案

①教材

ワークブック；授業の説明と毎回のルーティン教材の冊子。

ワークシート ；毎回の授業に合わせて作成・配布。教員によってはシートを変更することも可とした。

説明シート ；演習や概念の説明等のシート。

パワーポイント；授業の内容・進め方をわかりやすくまとめた。教員がアレンジして使うことも可とした。

②教案

授業の標準的な進行表と標準的な進め方、演習の方法等を記載している。非常勤教員も含め、明星教育センターの教員が担当するので細かい説明、演習の進め方の手順よりも、学生に伝えるべき内容を明確に記載した。

4. 授業運営

1）クラス編成

2年生後期科目として、13クラス開講し235名が履修した。経済学科、造形芸術学科、国際コミュニケーション学科の3学科が学科学目に読み替え措置をとった。その結果、経済学科113名、造形芸術学科39名、国際コミュニケーション学科18名が履修をした。また、自由科目として学部学科の指定無しに履修した学生は65名で昨年の29名より36名増加となっている。

2）担当教員・授業開講

授業担当は、7名の教員が担当した。内訳は、特任教員4人と常勤教員1人、専任教員1名および非常勤教員1人である。授業開講曜日時限は表2の通りである。

学科	H25年度	H24年度	開講曜日・時限（ ）はクラス数
経済学科	113名	99名	金曜3限(5)
造形芸術学科	39名	80名	火曜3限(1)、4限(1)
国際コミュニケーション学科	18名	-	火曜5(1)
学科混合クラス	83名	29名	月曜5限(1)、火曜5限(1)、水曜5限(1)、金曜3限(2)
小 計	235名	208名	

表2 履修学生数・開講曜日時限

5. 実施結果

1）出席率・単位修得率

出席率の平均は、76.8%（昨年度71.6%）となり昨年度よりも5.2ポイント上がった。最も高かったのは、第1回目84%、最も低かったのは第7回の66.5%であった（表3出席率参照）。出席率と単位修得率は、履修者数235名からその27名をのぞいた208名で計算している。



表3 出席率

6. 第1回と第15回の学生アンケートからの考察

1）授業評価（質問1～3）

平成24（2012）年度同様、授業への評価は自己評価ではあるが、平成25（2013）年度においても、各項目とも非常に高い数値を示している。この授業を受けた99%の学生が、授業内容は満足と好意的な評価をしている。

学生のコメントからも、質問1では、「自分のことについて考え、改善するようになった」、「チームでのディスカッションが楽しかった」、「責任感を感じることができた」、「人の意見を聞き自分の考えとの違いなどを考えてまとめる力がついた」など、「自立と体験3」でのねらいを学生が自覚し身につけていることが分かる。質問2では、「問題があまり身近に感じられないことがあると人任せにしてしまう」、「1回目と15回目を比べれば、だいぶ積極的にできているがまだ積極性に欠けている」等自分の問題点を自覚する意見や次年度の課題となるような意見がでている。質問3では、学生のコメントから「自分のことを知ることができる」、「他の授業では体験できないことを体験でき、学べる」、「先輩に推薦している」とありこの授業が目指し、ねらいとしていることを学生が受け止めていることを感じる。

【質問1】あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？

よかった（66%）、ややよかった（33%）、あまりよくなかった（1%）、よくなかった（0%）

【質問2】あなたは授業にどのように取り組みましたか？

非常に積極的に取り組めた(21%)、積極的に取り組めた（54%）、まあまあ取り組めた（21%）、あまり積極的に取り組めなかった（4%）

【質問3】この授業を先輩にも推薦しますか？

大いに勧めたい（25%）、勧めたい（68%）、あまり勧めたくない（5%）、勧めたくない（2%）

2）キャリア意識、仕事・職業意識（質問4～6）

質問4では、自分自身が社会に出ることへの意識について問う設問であるが、ほぼ90%と高い。そして質問5の社会で働く必然性（84%）、質問6の働く楽しさ（75%）の順に低くなる。この授業をきっかけに、就職を意識し始める学生はかなりの多いが、社会に出て働くことに楽しさややりがいのような肯定的な意識はまだ持てない学生がいることが分かる。

学生という立場で、社会で働くことをイメージするのは難しいが、授業の内容や教材の工夫によって社会で働く意義を身近で自分にとって重要なものに行き届くようより一層踏み込んでいく必要がある。

【質問4】授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？

とてもそう思う（23%）、そう思う（66%）、あまりそう思わない（10%）、全くそう思わない（1%）

【質問5】働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？

大変そう思う（17%）、そう思う（67%）、あまりそう思わない（16%）、全くそう思わない（0%）

【質問6】社会にでて働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか？

大変そう思う（18%）、そう思う（57%）、あまりそう思わない（23%）、全くそう思わない（1%）

3) 授業内容（質問 7 以降）

質問 7 では、授業内の演習で印象に残ったものを挙げてもらったが、個々の演習（ワーク）がいくつかあげられているが、全体で目立った演習としては「プレゼンテーション」を挙げる学生が多かったことである。平成 25（2013）年度の授業では、すでに記したように「個人プレゼンテーション」を演習として取り入れており、多くの学生が積極的に取り組んでいた。自分自身を見つめ、自己理解を深め、自己表現をするという難しい課題にチャレンジして学んだことが履修者にとって印象が強かったようである。質問 8 の設問でも、やはり目立つ回答は、プレゼンテーションや会話・話し合いということを挙げる学生が多かったことである。他方で、授業内で協同学習を多用していることもあり、チームワークや協調性、計画性、考える力など問題を解決するためのスキルを挙げる学生も多数いた。

質問 9 で目立った回答は、「ハードルを上げる」というようなコメントであった。「もう少し難しいテーマ」というような直接的なものもあるが、「個人プレゼンテーションをもっと増やす」、「全員での意見交換の機会」など間接的だが、意識の高さを感じるコメントが散見された。

【質問 7】「自立と体験 3」の授業の中で最も印象的だったことをあげてください

【質問 8 この授業の中でどのようなことが身についたと思いますか？

【質問 9】今後のためにこの授業への提案がありますか

7. 次年度への課題

平成 26（2014）年度は、下記の点を勘案しながら教案、教材に若干の改訂を加え、同じカリキュラム、教育内容で実施し、明星大学独自のキャリア教育の確立に近づけて行く予定である。

- ・明星大学独自の体系的なキャリア教育として、「自立と体験 1・3・4」の流れを一層明確にする。
- ・問題解決でとりあげるテーマについて、より社会性を持たせる内容と取り上げ、高い目標を掲げ、より一層考えることを体験させる。
- ・「振り返り」を重視した授業構成にする。体験を振り返ることにより学びを深化させる。
- ・200 字演習は、基本的な文章の書き方を指導する時間を設け文章力を高める。
- ・「自立と体験 3」の授業内容や受講する意義の理解度を高めることによって、最後までしっかり受講する意識を持てるオリエンテーションとする。

例：過去に受講した学生の声を紹介するなど。

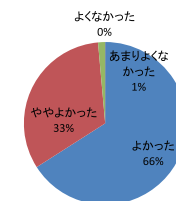
- ・「論理的に話す」ことを、意識的に取り入れていく。

以 上

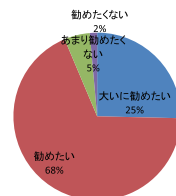
添付資料

資料 1 「自立と体験 3」授業アンケート結果

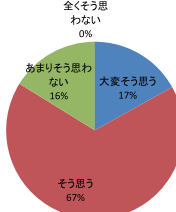
(1) あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？



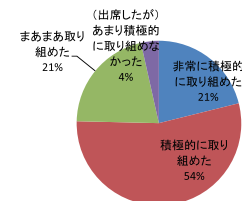
(3) この授業を後輩にも推薦しますか？



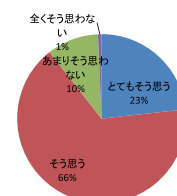
(5) 働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？



(2) あなたはこの授業にどのように取り組みましたか？



(4) 授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？



(6) 社会に出て働くことの中に、楽しさを見つけれそうですか？

